

科目番号	科目名		英語名		
HE21001	医療史		Medical History		
標準履修年次	単位数	開設学期	曜日	時限	使用教室
1年	1単位	春学期 AB	水曜日	6時限	臨床講義室 D
担当教員（研究室・連絡先・オフィスアワー）					
長田道夫（病理学・3171） 菅野幸子（法医学） 森川一也（微生物学・3928） 高橋 智（解剖学・発生学・7156） 加藤光保（病理学・3159） 渋谷 彰（免疫学・3474） 高橋伸二（臨床・3092） 磯辺智範（放射線・7834） 兵頭一之介（内科学・消化器内科） 市川政雄（国際社会医学・3423） （各担当教官への連絡は、訪問前にメール等で確認してください）					
学習目標					
<p><b>歴史は現在を理解する礎である。</b>医療(学)史は、医学を学ぶものの基礎教養科目であり、人類が、病気という脅威とどのように対峙してきたかというドキュメントでもある。</p> <p>歴史的発見や時代を背景とした学説などを通して、医療の本質と現代医療の礎を理解する。講義では、まず古代に遡り思想としての医学の発祥から人間における医学の意味を考える。続いて、近代医学の基礎となった解剖学、病理学、微生物学、免疫学の発展に寄与した発見や学説について理解する。さらに近代最大の脅威である癌および外科学の進歩に大きく寄与した麻酔学の歴史について理解を深め、最後にこれらの医学の発展を医療として具現するための医療制度の歴史について学ぶ。</p> <p>本授業を受講すると以下のことについて理解し説明できるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療の原点としての古代の思想と哲学</li> <li>2. 解剖学と病理学の発展に寄与した主要な業績と学説およびその意義</li> <li>3. 免疫学と微生物学の基礎となった主要な発見とその意義</li> <li>4. 癌に対する考え方の変遷と治療的進歩</li> <li>5. 麻酔、放射線の黎明とその医学への寄与</li> <li>6. 疫学の医療への貢献</li> </ol>					
使用言語（ <input checked="" type="checkbox"/> してください）： <input checked="" type="checkbox"/> 日本語・ <input type="checkbox"/> 英語・ <input type="checkbox"/> バイリンガル					
授業内容（概要、回数、担当教員等）					
1	4月19日	医学の原点としての古代医学（菅野）			
2	4月26日	解剖学の歴史（高橋智）			
3	5月1日(月)	病理学の歴史（長田）			
4	5月10日	免疫学の歴史（渋谷）			
5	5月17日	癌の発見と研究の歴史（加藤）			
6	5月24日	疫病と微生物学の歴史（森川）			
7	5月31日	癌治療の歴史（兵頭）			
8	6月7日	近代外科の夜明けと麻酔の歴史（高橋伸二）			
9	6月14日	放射線の発見と医療への応用（磯辺）			
10	6月21日	疫学の夜明け（市川政雄）			
単位取得要件		授業に出席し、試験に合格すること。			
使用教科書・教材		適宜プリントを配布する。 参考図書 【医学の歴史】梶田 昭著 講談社学術文庫			
成績評価		出席と学期末試験で評価する。			
備考：医療科学類の学生には必修科目であり、医学類の学生には選択科目である。ともに医学を広く学ぶものとしての医療史の意義を理解すること。他学学生の受講も歓迎する。成績評価は、出席と学期末試験による。試験は広く理解度を問う。再試験は医療史を必修とする学生に行う。					